

人著用襲淺沓布衣沓笠持白張也略記之鳥丸萬里小路久我菊亭等大納言廣幡姊小路花山院等  
中納言油小路正親町三條等宰相櫛笥三位萩原舟橋式部難波少將阿野少將極薦倉橋奉行頭辨  
〔百一錄〕寶永六年七月十二日新院山○東今日仙洞江○靈元御幸始也公卿雲客隨身御後官人等有之  
十一月廿三日新院御幸始出車公卿雲客供御女御白轅著御廿六日仙洞女院御幸始公卿雲客  
供奉出車一輛

〔執次詰所記光格〕文化十四、三、二十六日御幸始于内裏

〔明月記〕建仁二年正月三日來六日御幸始鳥羽○後云々六日即參院略○中御幸甚遲人々多參集未一  
點許出御御直衣紫浮右府御簾車中將定通取御劔口頭藏頭隆衡春宮亮長經付御車各騎馬東洞  
院南三條西入鳥丸西門母后御所

〔玉藥〕承元四年正月四日癸巳今日上皇鳥羽○後始御幸七條院母后○依先日催已刻著直衣冠參院候  
上達部座先是關白在座

〔増鏡内野〕實治も三年になりぬ春たち歸るおしたの空の光は思ひなしさへいみじきを院  
うちのけしきまことにめでたし略○中四日はせうめいもんゐん後嵯峨○御幸はじめ院後  
の御さまのつきせすめでたく見えさせ給をわく世なういみじと見たてまつらせ給うきおり  
物のうす色の御さしぬき紅の御ぞたてまつれりかんとちめ殿上人なをしうへのきぬ思ひ思  
ひなり攝政殿もまゐり給夜に入て歸らせ給ぬ

〔百練抄後深草〕建長六年正月四日戊寅上皇後嵯峨○御幸始承明門院○藤原已下供奉之  
〔園太曆〕康永四年三月十六日今日上皇光藝○御幸始也依御不豫今春未及御幸也

〔宣順卿記〕慶安五年正月九日今日本院水尾○新院明女院東福門○御幸禁裏如例年今夜始外様  
内々當番四五人紫宸殿御後御聽宿昨夜内前本院後騎德大寺大納言直衣紫署諸大夫衛府長布

帝王部 十三

御幸